

334 災害時の備蓄水を無理なく行えるウォーターサーバー

取組主体	法人番号	事業者の種類（業種）	実施地域
サントリービバレッジソリューション株式会社	8010001173126	サプライ関連事業者 （製造業）	東京都

1 取組の概要

天然水の定期宅配サービスを備蓄水として活用

- 同社が実施している天然水の定期宅配サービスは、定期的に各家庭に水が届けられるため、いざという時の備蓄水として活用可能である。
- 災害発生時のための飲料水の確保と食料品の備蓄について、国や地方公共団体では各家庭や事業所等での備えを勧めており、たとえば、東京都では、家庭でも最低3日分の飲料水・食料品等の備蓄を推奨し、帰宅困難者対策としては、ひとり当たり1日3ℓ、3日分で9ℓの備蓄を行うことなどが基準とされている。
- 被災地では、手洗いや体を清めることが感染予防の鍵になる。また、トイレが使えないことから、水分を控える被災者も多く、脱水症状やエコノミー症候群を招くケースも見られる。

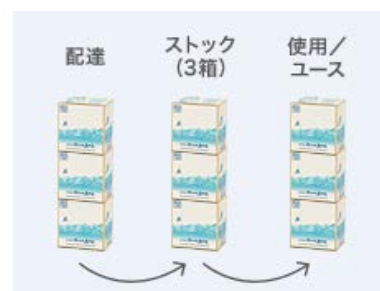


▲同社のウォーターサーバー

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

ストック&ユース方式による継続的な備蓄

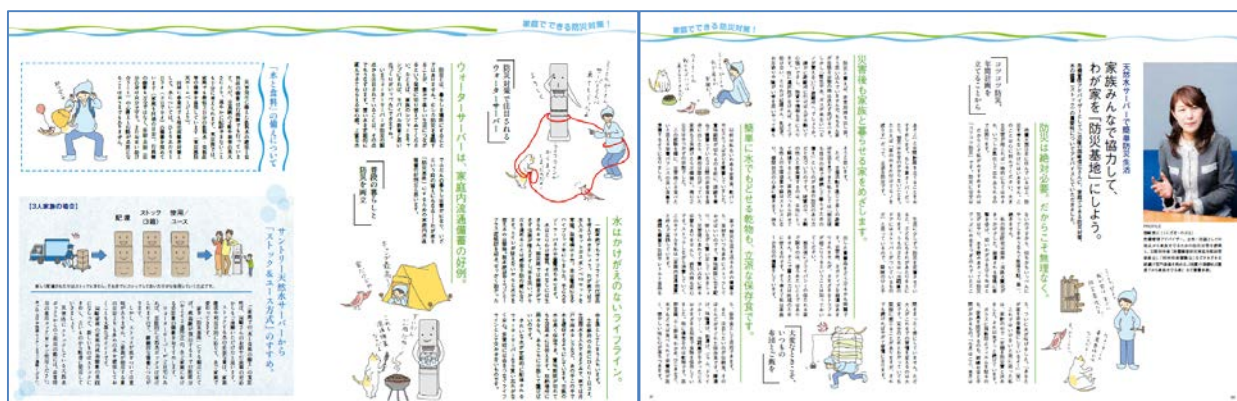
- 同社が実施している天然水の定期宅配サービスの取組では、定期的に天然水ボックスが自宅に届けられるため、継続的な備蓄につながる。また、新しいものはストックにまわし、古いものから順番に使用する「ストック&ユース方式」にすることで、賞味期限（6ヶ月）を気にすることなく、活用することができる。
- 専用コックを天然水ボックスに直接装着することにより、停電時でも利用でき非常時用ストックとして活用できる。
- 天然水ボックスは1箱7.8ℓあり、6箱（46.8ℓ）備蓄しておけば3人家族の5日間（3人×3ℓ×5日=45ℓ）の水を確保することができる。



▲同取組のイメージ

ガイドブックで普段の暮らしの再点検と備蓄の大切さを訴求する

- 同社では、サーバー設置時に配布するガイドブックにおいて、災害時の備えについて記載し、顧客に対し備蓄の大切さを伝えている。
- 具体的には、危機管理アドバイザーへのインタビューをもとに、「無理なくできることは？」「水の備蓄はどのくらい必要？」等、天然水サーバーの利用法の他、万一の自然災害に備えて普段の生活を再点検させる内容となっている。



▲ガイドブックの内容

3 取組の平時における利活用の状況

- 重たい水が常にストックされるようになってきていることから、平時における水の使用量が把握できるとともに、新たな行為なしに確実な水の備蓄につながっている。

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 人命にとって最も重要な「水」を各家庭で備蓄することで、ライフラインが寸断されても2次災害への波及（社会機能の混乱、感染症の拡大等）を最小限に抑制できるとともに、プライバシーの保たれた自宅で過ごすことができるため、被災者の精神的な負担を軽減できる。このように各家庭の小さな取組が、社会機能の混乱を最小限に抑えることができ、国土強靱化に寄与する。

5 防災・減災以外の効果

- 新たな行動を起こすことなく、自然と備蓄できることをアピールすることで、需要の醸成に役立っている。

6 現状の課題・今後の展開など

- 飲料水を備蓄する上で賞味期限がより長いほうが利用者にとって安心につながるため、同社では賞味期限の延長化に向けた研究をすすめている。これにより、賞味期限は現状の6ヶ月から

12 ヶ月に変更する予定となっている。

- 同社では、サーバー設置に配布するガイドブック内で飲料水のストックの重要性を伝える他、防災の日等、意識の高まるタイミングでの訴求を検討している。
- 停電時でも天然水ボックスに直接取り付けて使用できる非常用コックの利便性を改善する研究もすすめられている。

7 周囲の声

- 水は非常時には命をつなぐライフラインとして欠かせないものであり、定期的に水が配達されるウォーターサーバーなら買い忘れがなく安心です。さらに、上質な水でふだんの暮らしは豊かになる。ウォーターサーバーはわが家を「防災基地」にするための家庭内流通備蓄の好例だと思います。(危機管理アドバイザー)